

## 訪日誘客支援空港の認定等に関する懇談会（平成 30 年度フォローアップ会議②） 議事概要

日時：平成 31 年 3 月 18 日（月）13：00～15：00

場所：2 号館共用会議室 3B

1. 訪日誘客支援空港に対する平成 30 年度フォローアップ評価(案)について  
事務局より、訪日誘客支援空港に対する平成 30 年度フォローアップ評価(案)について説明。その後、議論を経て、懇談会委員による評価が取りまとめられ、総合評価 S は、熊本空港、米子空港、佐賀空港、松山空港となった。  
※松山空港については、懇談会委員から「総合評価 S ではあるものの、設定した目標が低かったのではないか」という指摘もあった。
2. 評価結果の取扱いと今後の取組の方向性について  
事務局より、評価結果の取扱い等について説明。その後、地方空港における更なる国際線就航に向けて、議論が行われた。主な指摘は以下の通り。

### ○更なる需要の増加に向けた方向性について

- ・特に、種々の観光施策による訪日客誘致の支援を受けている地域をはじめとして、目標設定が空港や空港が所在する地域の実力に照らして低すぎるものとなっていないか、再度確認する必要がある。
- ・更なる需要の増加や空港の独自性の発揮に向けて、空港によっては、就航が集中する東アジア 4 都市のみならず、東南アジアや中国内陸部等の新たな市場を開拓する必要があるのではないか。
- ・地方空港間の競争が激化するなか、より充実した観光資源の提供等の観点から、他空港と広域で「連携」する取組を更に具体化していくことが求められるのではないか。

### ○エアポートセールスについて

- ・エアポートセールスについて、単に回数を重ねるのではなく、その目的を明確化し戦略的に行うとともに、需要に関する定量的なデータも活用すべきである。
- ・新規就航・増便への支援にあたっては、当該路線の自立を見据えて行う必要がある。

### ○空港・旅客の受入体制について

- ・新規就航・増便にあたっては、グランドハンドリング体制を含めた関係者との早期かつ密な情報共有が必要である。
- ・F I T 旅客が増加するなか、旅客の利便性向上に向けた二次交通の改善・更なる充実に努めるべきである。
- ・二次交通等の環境整備について、持続可能なスキームであることに留意して実施すべきではないか。
- ・災害発生時の体制（多言語案内、充電設備等）が不十分な空港については、早期に整えるべきである。